



ゴーシユー、医療向け参入

マグネシウム製 薄肉パイプ開発

ゴーシユー(滋賀県湖南市、後藤充啓社長、0748・77・3110)は、ステントなど医療製品向けとしてマグネシウム(Mg)製の薄肉パイプを開発した。加熱したMg合金粉末を「縦

型押出式」という独自のウハウを盛り込んだプレス機で成形することで、従来は難しかった全長2級級の薄肉パイプを実現した。6月から医療メーカー2社に対し試作品の供給を始める。同社の主

力は自動車部品向けの鍛造品が中心。今回が初参入となる医療製品の市場で存在感を高める。Mg合金粉末については、粉末冶金に関する知見が多い大阪大学接合科学研究所の近藤義教授

と技術連携した。開発したMg製薄肉パイプは直径1.8mmで肉厚は0.15mm程度。中心のずれの度合いを示す同軸度は0.0015以下に抑えている。納入先の医療メーカーが薄肉パイプを



直径1.8mmで成形したマグネシウム製薄肉パイプ

ステントに加工する。狭心症などの治療に用

いる網目状のステントは金属糸を編み込むタイプ

とパイプから仕上げるものがある。強度確保の面で最近では極細パイプの引き合いが多いという。

同社は自動車用鍛造品製造の技術を応用し、医療用薄肉パイプ専用のプレス機を開発。粉末押し出しによる加工の高速化とMg合金粉末を連続投入できることで、加工時間の短縮と歩留まり改善に貢献できる。押し出し式による長尺化でパイプのつなぎはぎが少なく済むことから強度向上に寄与できる利点もある。

ゴーシユーの2014年3月期売上高は前期比横ばいの218億円の見通し。自動車部品用鍛造品は約70%を占める。13年にインドネシアと中国に相次いで変速機用の鍛造品工場を設けて海外シフトを鮮明にしていた。ただリスク分散の狙いもあって本社工場では医療製品の生産比率を徐々に高める考え。9月にはプレス機を追加導入する計画で医療製品の売上高は初年度2000万円の見込み。5年後をめどに同2億円を目指す。